

科目名	統計学						
科目名(英)	Medical Statistics						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	黒木 宏一
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	リハビリテーションを科学的に理解し、実践したリハビリテーションを客観的に表現し、あるいは評価する場合、統計学の知識・手法が用いられる。本授業では、統計量や区間推定、統計的検定などについて演習を通じて学習し、統計 学的な考え方を身に着けることを目標とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				統計量や区間推定、統計的検定などについて説明できる。	
	○	○				統計 学的な考え方を身に着ける。	
テキスト・教材 参考図書	石村貞夫ほか(2015)『よくわかる統計学 看護医療データ編[第2版]』東京図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	統計学とは				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	データの収集				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	データのまとめ方(1):度数分布表				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	データのまとめ方(1):度数分布表				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	2変数のデータの関係(1):相関係数				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	2変数のデータの関係(2):回帰直線				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	クロス集計表の作成				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	確率分布				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	推定と検定の関係				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	区間推定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	仮説検定(1):対応のある平均の差の検定・比率の差の検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	仮説検定(2):平均の差の検定・比率の差の検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	クロス集計表と独立性の検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ:基礎統計量、区間推定、統計的検定				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	電卓を持参すること。						

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	Communication Studies						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	森 朋香
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技: △ ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				コミュニケーション理論の知識を理解し説明できる。	
	○	○				様々な場面におけるコミュニケーションの方法と重要性を理解し、説明できる。	
		○	○	○		コミュニケーションの基礎知識を踏まえつつ、場面に応じた適切なコミュニケーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版㈱ 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	7	対人コミュニケーション③ リスニング				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	9	個人内コミュニケーションと自己概念				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	10	報告・連絡・相談				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	11	対立処理				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	12	パブリックコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	15	まとめ				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
評価方法	成績処理方法: (1)レポートを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)コミュニケーション行動習熟度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					70%
	レポート		○				10%
	コミュニケーション行動習熟度		○	○	○		20%
履修上の注意							

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ（GCBⅡ）									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		松田 茂	
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験		作業療法士として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年生									
授業概要	価値ある自分を認識し“志”を立て行動すること、あきらめずに強く人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。 先人の生き方や言葉から“志”の立つとき、“志”とは何かを学ぶ。 先輩やクラスメートたちの考えや意識に触れ自分自身を振り返り、自分の考えや意見も伝える機会を持つ。									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○		○		考えることの大切さを知る。				
	○	○		○		自分の言葉で伝える大切さを知る。				
	○	○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る。				
	○	○		○		行動する大切さに気付く。				
テキスト・教材 参考図書	1. GCBⅠテキスト 2. GCBⅡテキスト									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	感謝心と思いやりについて（GCBⅠを振り返り）					教科書にて復習			
	2	グローバルシティズンと志					教科書にて復習			
	3	なぜ志を立てることが大切なのか1					教科書にて復習			
	4	なぜ志を立てることが大切なのか2					教科書にて復習			
	5	自己を知る～私の過去・現在・未来～1					教科書にて復習			
	6	自己を知る～私の過去・現在・未来～2					教科書にて復習			
	7	前半の振り返り					前半のGCBで考えたことを復習			
	8	伝える力を学ぶ1					教科書にて復習			
	9	伝える力を学ぶ2					教科書にて復習			
	10	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる1					教科書にて復習			
	11	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる2（先輩の講話）					教科書にて復習			
	12	自己の大切さと責任を自覚する					教科書にて復習			
	13	伝える力を実践する1（シナリオ作り）					教科書にて復習			
	14	伝える力を実践する2（3分間スピーチ）					教科書にて復習			
	15	まとめ					教科書にて復習			
評価方法	(1)レポート 80(%) (2)発表 20(%) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲		その他	評価割合	
	定期試験									
	小テスト									
	宿題・レポート	◎		◎		◎			80%	
	発表・作品	◎		◎		◎			20%	
履修上の注意										

科目名	解剖学演習									
科目名(英)	Seminar for Anatomy									
単位数	1			時間数	30時間			担当者	小川 皓一	
実施年度	2020年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年									
授業概要	身体の基本的構造として、神経系に関する解剖学的構造の理解を図る。また、組織学の演習より組織に関する構造の理解を図る。講義形式として概要となる講義を実施した後、自ら課題を進め解剖学的構造と名称を理解し、学生間で演習を進める。各項目においてまとめテストを実施し国家試験レベルで理解度を図る。 また、身体 の 構造位置関係の総理解として、検体解剖見学を実施する。									
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				組織の名称と構造を演習より理解し、国家試験問題で解答できる。				
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。				
	○	○				身体臓器の位置関係や名称を演習より理解する。				
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂									
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示		
	1	身体 の 構造の理解 神経系Ⅰ 概要(中枢・末梢 神経の概要)						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	2	身体 の 構造の理解 神経系Ⅱ 中枢神経① 脳の構造						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	3	身体 の 構造の理解 神経系Ⅲ 中枢神経② 大脳皮質・大脳基底核						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	4	身体 の 構造の理解 神経系Ⅳ 中枢神経③ 間脳・中脳・橋・延髄・小脳						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	5	身体 の 構造の理解 神経系Ⅰ～Ⅳのまとめ						国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。		
	6	身体 の 構造の理解 感覚器						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	7	身体 の 構造の理解 脳神経・自律神経						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	8	身体 の 構造の理解 脊髄の構造・脊髄神経						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	9	身体 の 構造の理解 伝導路(遠心性・求心性)						構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	10	身体 の 構造の理解 感覚器～伝導路までのまとめ						国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。		
	11	組織学演習①						演習にて自己学習を進める		
	12	組織学演習②						演習にて自己学習を進める		
	13	組織学演習のまとめ						確認テスト 国家試験問題にて確認		
	14	肉眼解剖学演習						検体 解剖より理解を得る		
15	解剖学演習全体のまとめ						解剖学 の 範囲の国家試験問題に解答できる。			
評価方法	(1定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%			
	各項目のテスト	○	○				30%			
履修上の注意	身体解剖において、構造のイメージと名称の理解を自己学習において進めておくこと。									

科目名	生理学演習									
科目名(英)	Physiology ; Practice									
単位数	1		時間数	30時間		担当者	坂口 博信 大津 隆一			
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年									
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものに することを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実 際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実 習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方 法を学ぶ。									
授業形式	講義： △		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	◎	◎				実習を通して、様々な機能を体得し説明できる				
テキスト・教材 参考図書	コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂 参考文献：コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	電気生理の基礎					学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと			
	2	実習 運動神経伝導速度の測定(誘発筋電図)					実習した内容を復習し、実習につなげていくこと			
	3	レポート作成					実習した内容をレポートにまとめる			
	4	知覚と行動(脳の仕組み)					学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと			
	5	実習 随意運動の反応時間					実習した内容を復習し、実習につなげていくこと			
	6	レポート作成					実習した内容をレポートにまとめる			
	7	体性感覚					学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと			
	8	実習 体性感覚(2点識別・重量感覚)					実習した内容を復習し、実習につなげていくこと			
	9	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)					学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと			
	10	レポート作成					実習した内容をレポートにまとめる			
	11	脳波 レポート作成					実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること			
	12	心電図					学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと			
	13	心電図 レポート作成					実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる			
	14	呼吸量					学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと			
	15	呼吸量 レポート作成					実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%			
	実習レポート	◎	◎				50%			
履修上の注意										

科目名	運動学Ⅱ										
科目名(英)	KinesiologyⅡ										
単位数	2		時間数	60時間		担当者	大内田 由美				
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年生										
授業概要	・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行) ・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようになる。(変形、異常歩行) ・運動の学習について理解する。(運動学習)										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。					
	○	○				運動器疾患でみられる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一・齋藤宏・長崎浩：基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版,2015. 2)嶋田智明・平田総一郎 監訳：筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版,2012. 3)配布資料 参考文献：1)Frank H Netter(相磯貞和訳)：ネッター解剖学図譜. 丸善株式会社,2001. 2)I A Kapandji(荻島秀男監訳)：カパンディ関節の生理学. 医歯薬										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	肩関節の構造と機能(上肢帯、肩甲上腕関節、胸鎖関節、肩鎖関節) 肩関節の構造と機能(烏口鎖骨間メカニズム、肩甲胸郭関節、第2肩関節)					資料・テキストを用いて復習				
	2	肩関節の臨床運動学 肘関節・前腕の構造と機能					Webテストの実施				
	3	肘関節・前腕の臨床運動学 手関節の構造と機能					Webテストの実施				
	4	手関節の臨床運動学 手指の構造と機能					Webテストの実施				
	5	手指の臨床運動学 手指の変形機序					Webテストの実施				
	6	上肢のまとめ 股関節の構造と機能(関節の構造、靱帯、関節の運動)					資料・テキストを用いて復習				
	7	股関節の構造と機能(股関節の安定に関与する因子) 股関節の臨床運動学					Webテストの実施				
	8	膝関節の構造と機能(関節の構造、膝蓋骨、関節半月、靱帯) 膝関節の構造と機能(関節の運動)					資料・テキストを用いて復習				
	9	膝関節の臨床運動学 足関節・足部の構造と機能					Webテストの実施				
	10	足関節・足部の臨床運動学 足の変形					Webテストの実施				
	11	体幹の構造と機能 体幹の臨床運動学					Webテストの実施				
	12	下肢のまとめ 正常歩行(歩行周期)					資料・テキストを用いて復習				
	13	正常歩行(歩行の決定因、床反力、歩行時筋活動) 異常歩行					Webテストの実施				
	14	運動学習(運動能力、学習の転移、運動パフォーマンス、運動技術、動機づけ) 運動学習(運動学習理論、運動療法で展開される運動学習の戦略)					Webテストの実施				
	15	全体のまとめ					資料・テキストを用いて復習				
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	○				80%				
	小テスト	◎	○				20%				
	宿題・レポート										
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	人間発達学								
科目名(英)	Human Development								
単位数	2		時間数	30時間		担当者	小野 仁		
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年								
授業概要	発達障害のリハビリテーションを実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互的に関係しあって生じる 発達の多様性を小児期を中心に学習する。また、各ライフステージにおいて、人として前向きに生きるということを考える。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を理解する。			
	○	○				発達理論の歴史とその変遷を知り、各領域の代表的な発達理論を理解する。			
	○	○				乳児期、幼児期、学童期における発達の特徴を理解する。			
	○	○		○		保育園実習で、こどもたちの安全に配慮し、こどもたちと楽しく一日過ごす。			
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 編 シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 南江堂 参考文献:(1)社団法人日本作業療法士協会監修:作業治療学3 発達障害、協同医書、2010 (2)上田礼子:生涯人間発達、改訂第2版 三輪書店、2012 (3)J.H.de Hass:乳児の発達一写真で見る0歳児一、医歯薬出版、1977 (4)上杉雅之:イラストでわかる人間発達学、医歯薬出版、2015 その他								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	人間発達とは？							
	2	発達理論とその価値観;運動発達、認知・心理発達の視点から							
	3	発達理論とその価値観;行動発達、社会的発達の視点から							
	4	運動機能の発達;体格、姿勢の発達							
	5	運動機能の発達;胎児期～新生児期							
	6	運動機能の発達;胎児期～新生児期							
	7	運動機能の発達;幼児期～学童期							
	8	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階							
	9	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階							
	10	情緒の発達;乳児期～学童期のパーソナリティの発達							
	11	社会性の発達;乳児期～学童期の日常生活能力の発達							
	12	言語の発達;乳児期～学童期							
	13	遊びの発達;乳児期～学童期							
	14	保育園実習					一日こどもたちと過ごすので体力が必要です。その他、準備物等は伝えますので、当日忘れないようにして下さい。		
	15	保育園実習後の発表					レポート作成と発表を行ってもらいます。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)保育園実習後、レポートを作成してもらい、発表してもらいます。 以上を下記の観点・割合で評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○	○				60%		
	レポート、発表	○	○		○		40%		
履修上の注意	※人間発達学は集中講義ですが、保育園実習は10月ごろに1日の日程で実施します。日程が決まり次第、連絡をします。また、保育園実習は8時半集合、16時頃の終了を予定しています。その後は通常の夜間の講義があります。								

科目名	基礎医学講座Ⅰ							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	30時間		担当者	①原田 芳美 ②井本 理美	
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	①作業療法士として病院/訪問リハで勤務 ②作業療法士として病院/デイケアで勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年							
授業概要	・人体の構造・機能について、骨標本や模型等を利用して名称や位置関係を理解しながら覚える。 ・解剖学、生理学、運動学の授業と関連させながら対象範囲の国家試験問題を実施する。 ・各項目で確認テストを実施して、学生自身に理解度を振り返ってもらう。 ・授業範囲の国家試験対策ノートを作成する。							
授業形式	講義：○		演習：○		実習：△	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○		○		骨・関節・筋の名称、位置、構造を説明することが出来る。		
	○	○		○		各臓器の名称、構造、機能を説明することが出来る。		
	○	○		○		授業内容に沿った作業療法士国家試験の問題を解答し説明することが出来る。		
	○	○		○		授業の範囲において国家試験対策に活用できるノートの作成することが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	教科書：1麻見直美, 川中健太郎：栄養科学イラストレイテッド運動生理学 羊文社 2.竹内修二：解剖トレーニングノート 医学教育出版社 3.竹内修二：生理学トレーニングノート 医学教育出版社 4.あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達雄(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル社 5.中村隆一, 齋藤宏：基礎運動学 医歯薬出版株式会社							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	コースガイダンス 骨格系Ⅰ～骨の各名称～(上肢)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	2	骨格系Ⅱ～骨の各名称～(下肢・骨盤性差)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	3	骨格系Ⅲ～骨の各名称～(顔面・体幹)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	4	骨の連結(関節の名称・形態・運動方向)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	5	代謝と栄養Ⅰ(栄養素・糖質代謝・脂質代謝・蛋白質代謝)・小テスト				小テスト範囲の復習。教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	6	代謝と栄養Ⅱ(基礎代謝とエネルギー代謝)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	7	循環器Ⅰ(各部名称と機能)・小テスト				小テスト範囲の復習。教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	8	循環器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	9	呼吸器Ⅰ(各部名称と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	10	呼吸器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	11	消化器Ⅰ(各部名称と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	12	消化器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	13	泌尿器・内分泌器Ⅰ(各部名称と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	14	泌尿器・内分泌器Ⅱ(国家試験問題演習／解答発表)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	15	まとめ(前期の振り返り)・小テスト				今までの授業資料のまとめを復習しておく。 小テスト範囲の復習。		
評価方法	(1)各項目の内容の国家試験対策ノートを作成する。(2)小テスト(筆記)を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験							
	小テスト	◎	◎				70%	
	宿題・レポート	◎	◎		○		30%	
	発表・作品							
履修上の注意	定期試験は実施せず、全3回の小テストと国家試験対策ノート提出を実施し成績評価をする。							

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)	Clinical Medicine						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	山田 茂憲
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	医療現場において必要な、救命救急医療および外科、脳外科の総論について学習し、また各論において学習するもの以外の、皮膚科、泌尿器科、婦人科・産科、眼科、耳鼻 咽喉科、その他老年期医療における特殊な問題について幅広い知識を身につけることを目標とする。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「PT・OTのための一般臨床医学」 医歯薬出版(株)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心肺蘇生法				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	2	外科総論				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	3	脳神経外科概論				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	4	皮膚疾患1				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	5	皮膚疾患2				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	6	泌尿器・生殖器疾患1				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	7	泌尿器・生殖器疾患2				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	8	婦人科・産科疾患1				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	9	婦人科・産科疾患2				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	10	眼疾患				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	11	耳鼻咽喉科1				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	12	耳鼻咽喉科2				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	13	心肺蘇生法・実習				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	14	特殊な問題・総括				学んだ内容を理解できるように復習すること	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical Psychology						
単位数	1		時間数	30時間	担当者	井上 慎司	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていけるために、他者とかかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				心理アセスメント(知能検査, 性格検査, 適性検査)を列挙できる。	
	◎	◎				発達および人格理論の種類と概要を説明できる。	
	◎	◎				各種心理療法の種類とその概要を説明できる。	
	◎	◎				医療領域における心理的援助の留意点を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる臨床心理学 改訂新版』 下山晴彦 編 ミネルヴァ書房 参考文献: 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 心とかかわる臨床心理[第3版]ナカニシヤ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床心理学とは何かー歴史				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	2	臨床心理学とは何かー臨床心理学と心理臨床				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	3	問題を理解するー心理アセスメント① 知能検査・人格検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	4	問題を理解するー心理アセスメント② 事例を通した理解				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	5	心理臨床の基礎ー心理的な悩みと精神病理				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	6	発達・人格理論① 古典的精神分析理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	7	発達・人格理論② 現代精神分析理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	8	発達・人格理論③ ロジャーズらの理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	9	心理療法① 古典的精神分析療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	10	心理療法② 論理療法・認知療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	11	心理療法③ 来談者中心療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	12	心理療法④ 現代精神分析				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	13	医療領域における心理的な援助				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	14	事例を通した理解				低試験対策を行っておくこと	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学・臨床心理学的な知識が求められるのかをひとまず理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理的な理解を深めることが望ましい。						

科目名	リハビリテーション概論Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to RehabilitationⅡ						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	安部 剛敏	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	担当者実務経験	病院で作業療法士として勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年生						
授業概要	リハビリテーション関連職種の役割を学び、各分野によってどのようなチームアプローチがなされているのかを知る。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				各専門職と役割について説明できる	
	○	○				各リハビリテーションの分野・領域における専門職の役割を説明できる	
	○	○				チームアプローチについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:セラピストのための概説リハビリテーション(文光堂) 参考文献:PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論-要点整理と用語解説(診断と治療社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	リハビリテーションに関連する専門職				教科書の予習をしておく。	
	2	作業療法士(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	3	理学療法士(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	4	言語聴覚士(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。	
	5	医師(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	6	看護師(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	7	義肢装具士(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	8	介護福祉士(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。	
	9	医療ソーシャルワーカー(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	10	臨床心理士(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	11	精神保健福祉士(役割と独自性)				教科書の予習をしておく。	
	12	身体障害分野でのチームアプローチの実際				教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。	
	13	精神障害分野でのチームアプローチの実際				教科書の予習をしておく。	
	14	発達障害分野でのチームアプローとの実際				教科書の予習をしておく。	
	15	まとめ				教科書の予習をしておく。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)レポートを1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
履修上の注意	授業計画は変更になることがあります。事前に連絡致します。						

科目名	作業療法理論						
科目名(英)	Occupational Therapy Theory						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	安部 剛敏 老川 良輔
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	作業療法士として病院で勤務
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部1年						
授業概要	・自分自身の作業を振り返りながら作業の多面性、意味や形態、機能について学習する。 ・作業療法の基礎理論である人間作業モデルおよび作業遂行と結びつきのカナダモデルの概要と基本的概念を学習し、 自分自身の成長や発達を振り返る。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				作業とは何か？日本作業療法士協会の定義を用いて、その多面性を説明できる。	
	○	○				人間作業モデルにおける作業の分類を列挙できる。	
	○	○				吉川らの「作業の意味を捉えるための枠組み」を列挙できる。	
	○	○				人間作業モデルの概念を通して自分の状態を説明できる。	
	○	○				自分が作業を通してどのように発達してきたのか、人間作業モデルの原理を使って説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・吉川ひろみ: 作業科学入門「作業」って何だろう 第2版 作業科学入門 医歯薬出版, 2017. ・Kielhofnor G著(山田孝監訳): 作業療法の理論 原著第4版 医学書院2014 ・その他、オリジナル資料配布						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	コースガイダンス					
	2	作業とは…作業科学、作業の定義、分類、多面性、4つの多側面(講義・演習)					Classi小テストの実施 作業の多面性に関するレポート作成
	3	作業の多面性演習、作業の意味①～引き起こされる感情、目的or手段、世界とのつながり					Classi小テストの実施
	4	作業の意味①～引き起こされる感情、目的or手段、世界とのつながり					Classi小テストの実施 作業バランスに関するレポート作成
	5	作業の意味②～自分らしさ、構造化と類型化					Classi小テストの実施
	6	作業の意味②～作業バランス演習					Classi小テストの実施
	7	作業の意味③～健康との関連性(作業の機能)と社会的意味					Classi小テストの実施
	8	作業科学の諸概念～作業の階層性、作業的公正とインクルージョン、トランザクション					自分の作業プロフィールレポート作成
	9	作業に関するフォトセッション					Classi小テストの実施
	10	理論の階層性とコラボレーション 人間作業モデル① 歴史的背景、基本的概念、人間作業のダイナミクス					Classi小テストの実施
	11	人間作業モデル② 意志					Classi小テストの実施
	12	人間作業モデル③ 習慣化					Classi小テストの実施
	13	人間作業モデル④ 遂行能力と環境、行為の諸次元					Classi小テストの実施
	14	人間作業モデル⑤ 作業の変化と発達					Classi小テストの実施
	15	作業遂行と結びつきのカナダモデル					
評価方法	(1)授業の復習テストを定期的に配信する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	レポート	○	○		○		30%
履修上の注意							